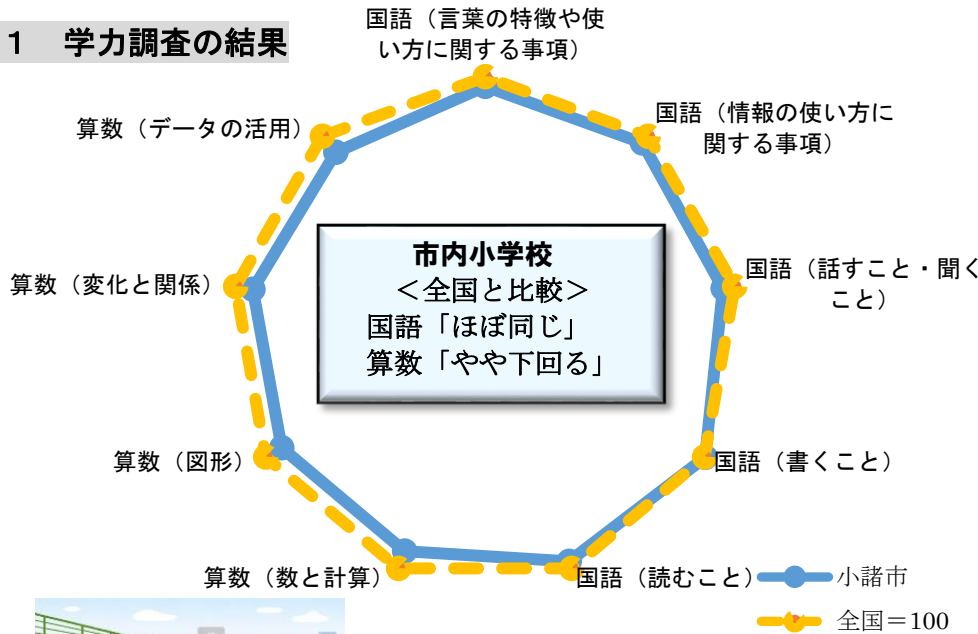


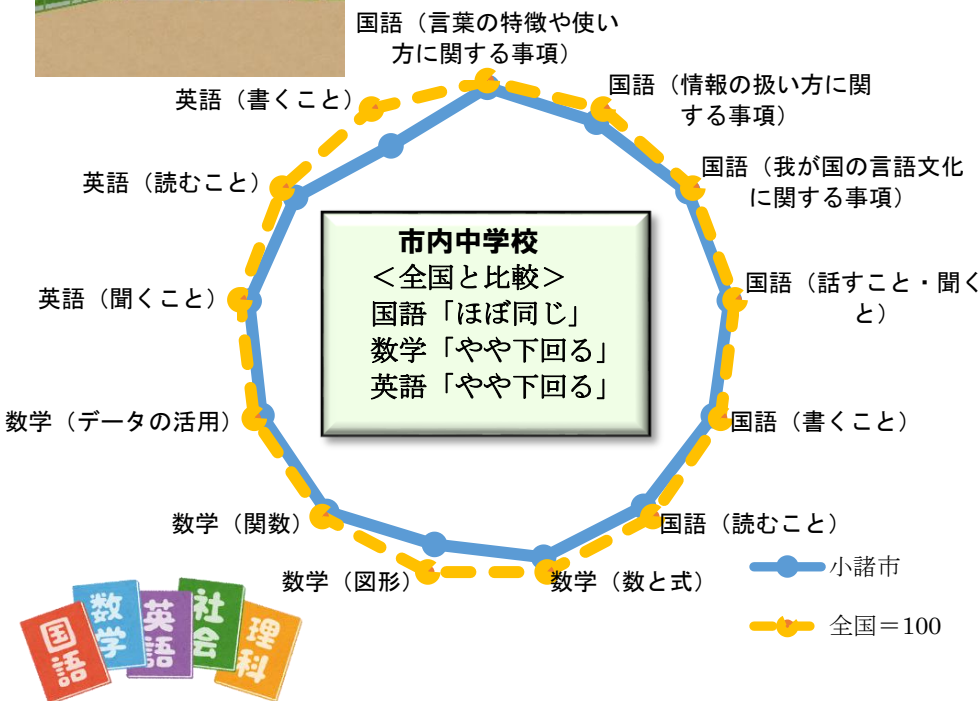
令和5年4月18日、全国学力・学習状況調査が行われました。この調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象とし、今年度は国語、算数・数学、英語（中学校のみ）で小学校は2教科、中学校は3教科で実施されました。小諸市内小中学校の調査結果は、学習指導要領の内容項目の平均正答率を全国（100）とし比べると、以下のグラフのような結果となりました。出題の趣旨からみた主な成果（◎）と課題（△）も示しました。

1 学力調査の結果



国語（小） ◎「書くこと」・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
 △「話すこと・聞くこと」・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること

算数（小） ◎「変化と関係」・伴って変わる2つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること
 △「データの活用」・『以上』の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ること



国語（中） ◎「我が国の言語文化に関する事項」・古典の原文と現代語の文章を対応させて内容を伝えること
 △「情報の扱い方の関係する事項」・具体と抽象など情報と情報の関係について理解すること

数学（中） ◎「データの活用」・累積度数の意味を理解すること
 △「図形」・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること

英語（中） ◎「聞くこと」・日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること
 △「書くこと」・『相手の行動を促す』という言葉の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くこと

★小諸市内小中学校ともに、全国と比較すると、「ほぼ同じ」か「やや下回る」という結果となりました。記述式問題の正答率が低めで、無回答率が高めの傾向にありました。
 ★次頁以降には、右上の各教科に示した課題（△）に関して、子供たちが苦手としている実際の問題の一部を取り上げてみました。また、「児童生徒質問紙」調査の結果からみえてきた点もまとめました。

3

山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの『下書きの一部』です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【下書きの一部】

「判じ絵」について

山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

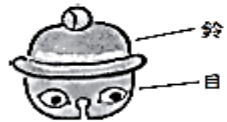
2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果
■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解説して楽しむものである。



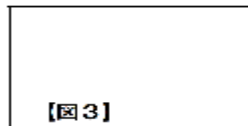
【図1】サル
(ア) ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものと異なるため、解説する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おしえて考える」ことが必要になる。(イ) 言ってみれば、なぜなぞやクイズのようなものである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解説の面白さ
「判じ絵」の解説の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解説すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図2】スズメ



【図3】は、

【図3】

三 山田さんは、「判じ絵」とは何か」と見出しを付けた文章の内容のまとまりで二つに分け、後半のまとまりには分けた内容と合う見出しを付けることにしました。分ける箇所として最も適切なものを、(ア)から(オ)までの中から一つ選びなさい。また、後半のまとまりに付ける見出しを考えて書きなさい。

【正答】

・分ける箇所が「ウ」

・見出しの例は「判じ絵の歴史」

【誤答の傾向】

「ウ」はできたが、適当な見出しを付けることができないもの

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

調べたことなどをレポートにまとめて各場面において、次のことができるかどうかみる問題です。

- ・読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること
- ・文脈に即して漢字を正しく書くこと
- ・具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと

【問題の概要】

この問題では、「判じ絵」とは何か」と見出しを付けた文章の(ウ)以降が、『判じ絵』がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのか』について具体的に説明していることを捉え、その内容に合う見出しを書くことが求められます。

算数（小）

(2) あいかさんたちは、5年生と6年生が30分以上の運動を週に何日しているのかを調べてみたいと思い、委員会の活動として運動カードを作りました。



5年生と6年生に運動カードを配って、運動した時間を記録してもらいましょう。

下の運動カードは、あいかさんが5月9日から5月15日までの1週間に運動した時間を記録したものです。

日にち	運動した時間（分）						運動した時間の合計（分）
	体をのばすほぐす運動	道具を使った運動	走る運動	縄とび	ボールを使った運動	その他	
5/9 (月)	10				25		35
5/10 (火)	5			10	15	10	40
5/11 (水)	10			5		15	30
5/12 (木)	5			10			15
5/13 (金)	5					10	15
5/14 (土)			20		35		55
5/15 (日)		10			35		45



運動カードを見ると、運動した時間の合計が30分以上にならなかった日もなかった日もありました。

運動カードで、運動した時間の合計が30分以上になった日数は、全部で何日ありますか。

答えを書きましょう。

【正答】「5」
【誤答の傾向】「以上」の意味を理解しておらず、「4」と回答したもの

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフからデータの特徴や傾向を、次の4点から捉えることができるかどうかをみる問題です。

- ・日常生活の場面と関連付けて、百分率で表された割合について理解していること
- ・「以上」などの意味を理解し、データを分類整理すること
- ・複数のグラフからデータの特徴を捉え、見出したことを表現すること
- ・データの特徴や傾向から導いた結論について、表から根拠となる数に着目すること

【問題の概要】

この問題では、「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみます。

- 9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形ABCと、 $\triangle ABC \equiv \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

図1

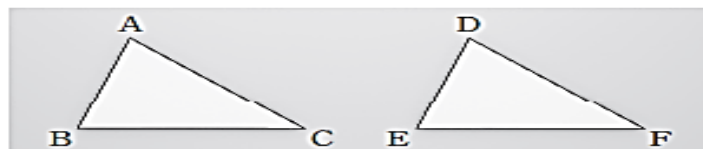
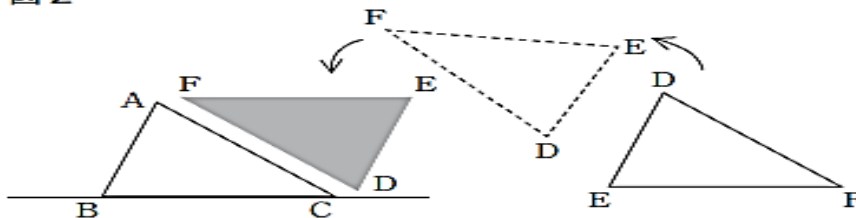


図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

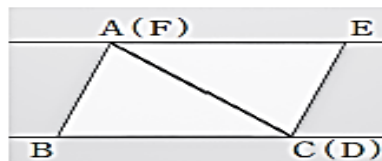
- ① $\triangle ABC$ を置いて、直線BCをひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点Fを点Aに、点Dを点Cに重ねる。

図2



- ② 図3のように、点Aと点Fが重なった点をAとして、直線AEをひく。また、点Cと点Dが重なった点をCとする。

図3



- (1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ です。

図6

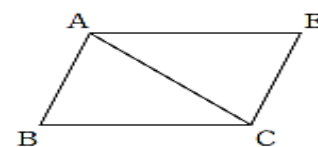


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

【正答例】「 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しいから $\angle BCA = \angle EAC$ よって錯角が等しいから $BC \parallel AE$ 」

【誤答の傾向】平行であることの表現が不十分だったり、根拠が抜けていたりするもの

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

図形の性質を考察する場面において、次のことができるかどうかをみます。

- ・方針に基づいて解決すること
- ・筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること
- ・問題解決の過程や結果を振り返り評価・改善すること

【問題の概要】

この問題では、図形についての考察場面において、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することが求められています。説明する際には、「 $\angle BCA = \angle EAC$ 」の根拠として「 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ より、合同な図形の対応する角は等しい」を、「 $BC \parallel AE$ 」の根拠として「錯角が等しい」を記述する必要があります。

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith) 宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.

The speech contest starts at 10:00.

You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。

【正答例】「Can you come to the speech contest?」
「Could you come to the speech contest?」
「Will you come to the speech contest, please?」

【誤答の傾向】依頼する表現を書いているが、誤りがあるもの

この問題に求められている力

【出題の趣旨】

文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができるかどうかをみます。

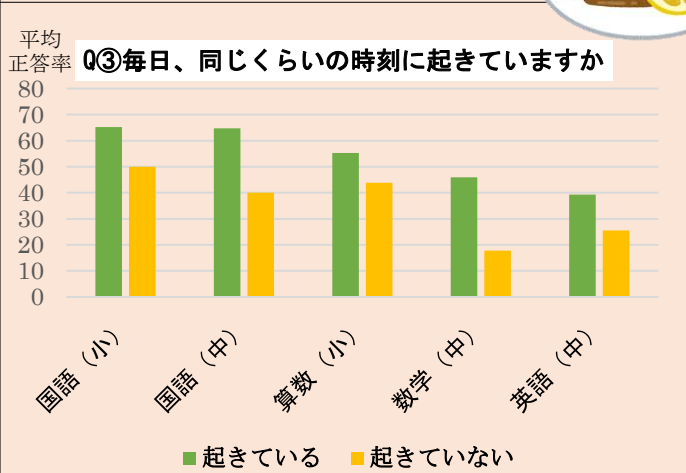
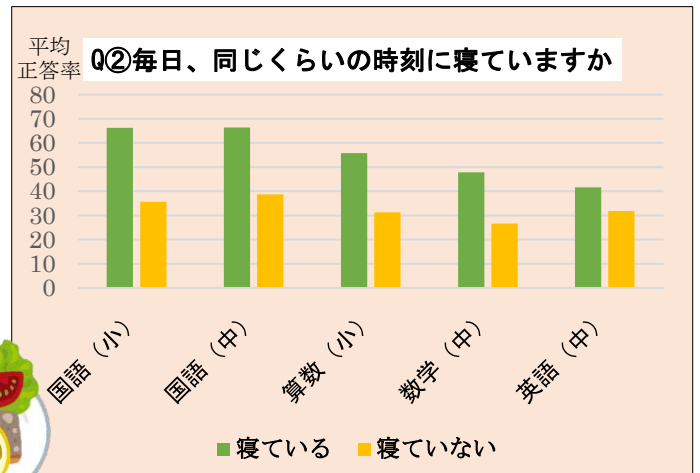
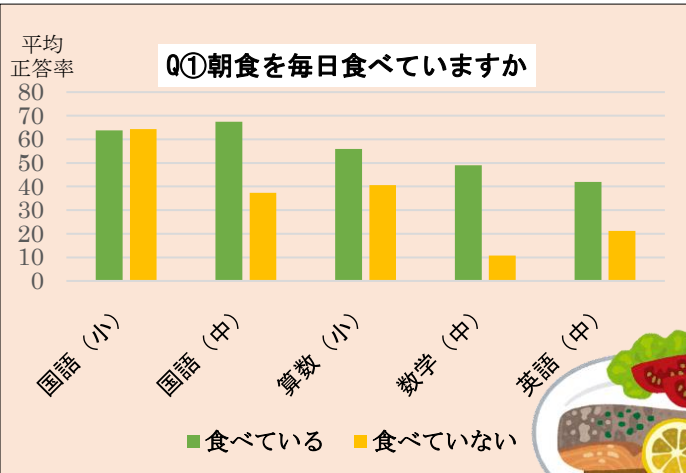
正確に書くためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きを理解するとともに、これらの知識を、書くことによるコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要です。文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことがねらいとされています。

【問題の概要】

この問題では、「相手の行動を促す」という言動の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことが求められます。

3 正答率からみた生活習慣と学力の関係性は・・・ <「児童生徒質問紙」調査の中から抜粋>

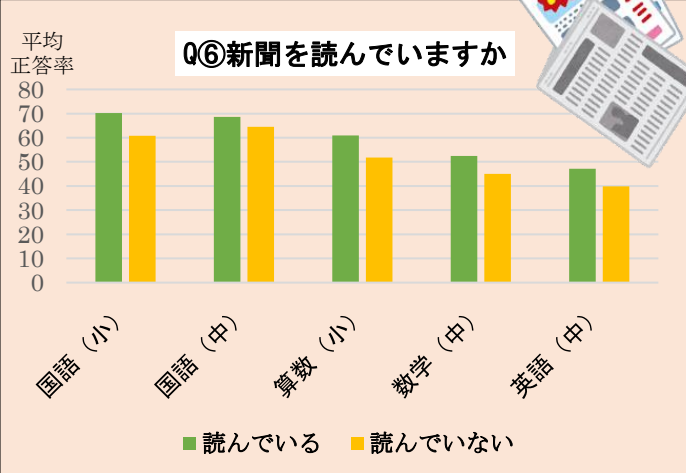
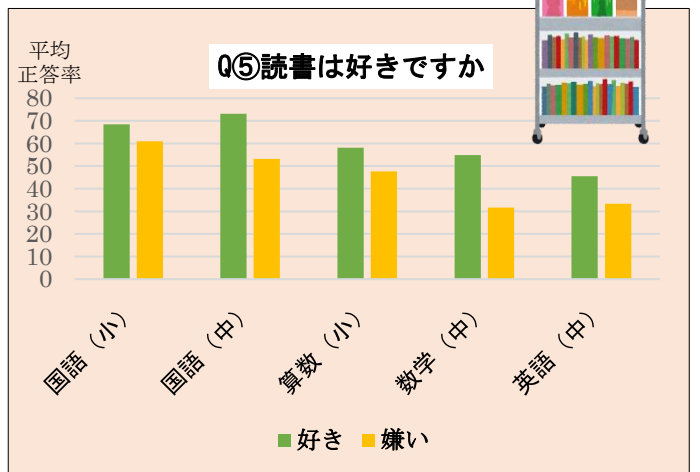
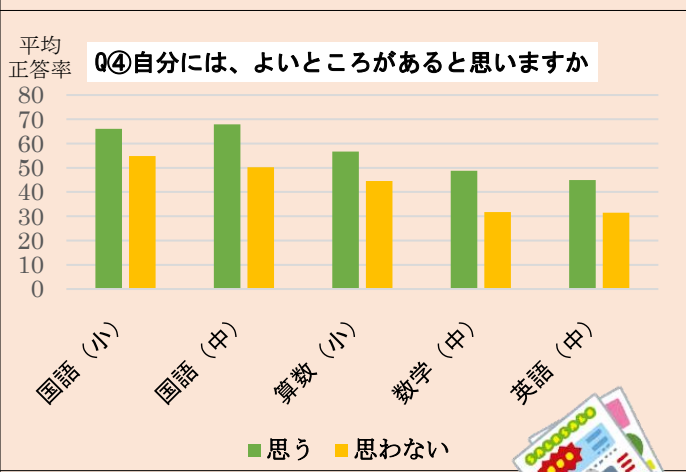
・子供たちの学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、基本的な生活習慣を身につけることも欠かせません。以下は調査から抜粋した質問に対し、正答率との関係をクロス集計した結果です。



☆Q①市内小・中どの教科においても、毎日、朝食を食べている子供ほど、正答率が高い傾向にあります。

☆Q②③毎日、決まった時刻に寝起きし、規則正しい生活習慣が身につけている子供ほど、正答率が高いことがわかります。

☆『早寝・早起き・朝ご飯』の必要性が以前から言われています。規則正しい生活リズムを身につけ、維持していくことにより、脳が活性化され、学力アップにつながります。

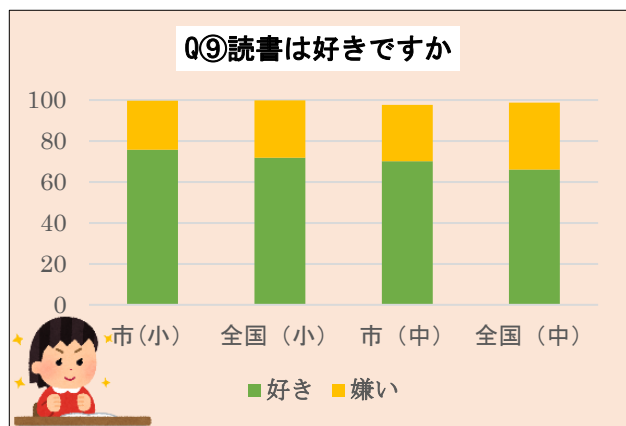
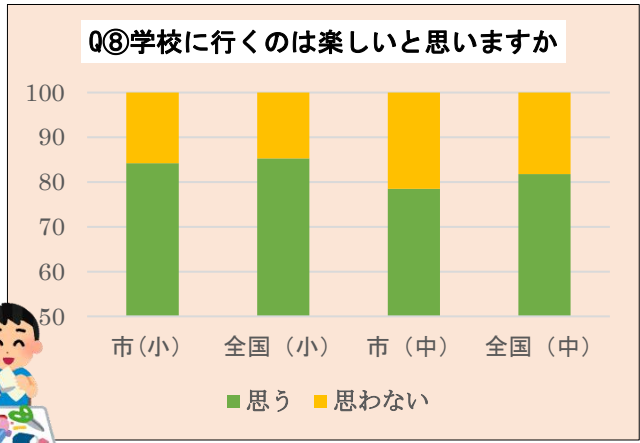
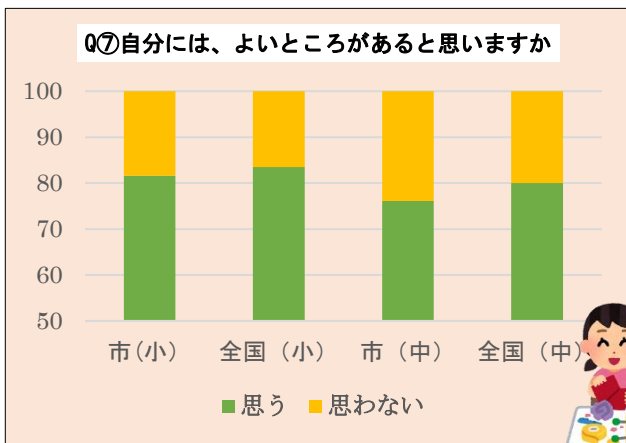


☆Q④自己肯定感が高ければ、学習のみならず、生活全般への意欲にもつながります。子供の考えを受けとめ、より多く励ますことが大切です。

☆Q⑤普段から本を好み、読書をしている子供ほど、正答率が高いことが分かります。いろいろな種類・分野の本に出会う機会が必要です。

☆Q⑥全国的にも新聞を読んでいる子供は、正答率が高い傾向にあります。しかし、新聞を読むこと自体が減る傾向にあります。まず新聞を手にとってみるのが大切です。

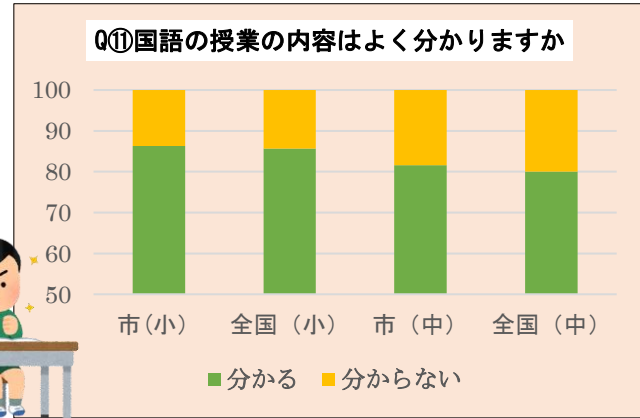
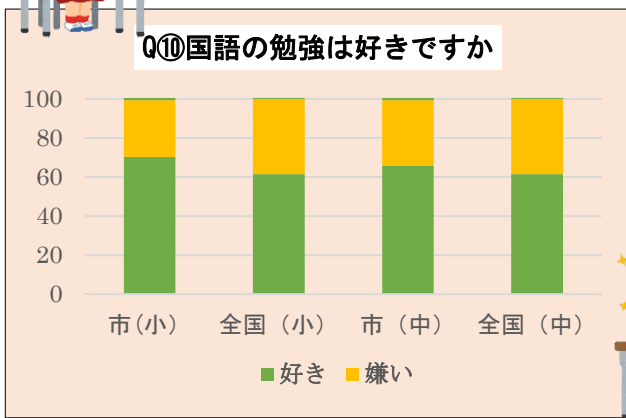
・学力の向上には、基本的な生活習慣を身につけることに加え、自分に自信を持ったり、学校へ行くことが楽しみだったり、授業の中で「わかった」「できた」と感じたりすることも大切です。以下に抜粋して取り上げた各質問に関して、小諸市と全国の子供の思いを比較してみました。



◇Q⑦子供の話にじっくりと耳を傾けることや、学習や活動の取組を粘り強く見守り、努力を認め褒めることを心掛けることが大切です。それにより、子供は自分のよさに気づいていきます。

◇Q⑧小・中ともに8割前後の子供が、学校が楽しいと感じています。学校でも家庭でも、学習や生活面での充実を図っていくことが必要です。

◇Q⑨市内の子供は読書好きが多いです。親子で同じ本を読み、感想を伝え合うこともよい取組になり、より読書好きな子供にします。



◇Q⑩⑪教科では国語を例に挙げてみますと、全国と比較してみても市内の子供は国語の勉強が好きで、授業が分かる傾向にあると言えます。他教科の授業においても、子供たちが「わかった」「できた」と実感できることが大切ですし、それが学力の向上にもつながります。今後もそのような授業を目指し、先生たちも授業改善に努めます。

※【注】Q⑩～⑪の回答は、本来4項目ありますが、肯定的な回答、そうでない回答の2項目の割合(%)で比較しています。

4 市内小中学校の今後の取り組みについて

この掲載内容は、学力や学習状況の一部であることをふまえて、今回の結果をもとに、今後の各校の授業改善や家庭と学校との連携のあり方について、考えるきっかけとして活用し、これからの時代に求められる子供たちの資質や能力のさらなる育成を図ってまいります。 <小諸市教育委員会>